

リハビリテーション学部における産学連携推進の連携モデルの構築

産学連携推進プロジェクトに至る経緯

- 2019年度より学部の事業計画として開始
- 2019年度;学部教員・他大学における企業との連携状況の調査を実施
→企業と連携している学部教員は約3割。連携可能な教員が多いが、本学には担当部署がなく、手続き等で不便さを感じる。

課題解決のための取り組み（2020年度～）

- 「教育」中心の産学連携から開始。学生のアクティブラーニング(主体的な学び)につながり、教育的効果も期待できる。
- 産学連携の取り組みを実際に行うことで、必要な環境整備について、関係部署と調整を図る。



2021年度の行動目標

- 連携企業との関係性の強化、および連携内容のモデル化の検討
- 連携に必要な学内整備の実施

実施① 企業・学生・教員による連携事業の実施

「心と身体の健康」をテーマにした動画作成（作業療法学科）

2020年度に引き続き、作業療法学科学生と杏林堂薬局のコラボ企画として実施した。「自宅でできる、心と身体への健康支援」をテーマに、アロマキャンドル作りと作業療法の専門知識を盛り込んだ動画を作成した。完成した動画は、杏林堂薬局YouTubeで公開中である。

動画はこちら↓



オンライン運動教室（理学療法学科）

理学療法学科学生と杏林堂薬局のコラボ企画として2020年度に実施した動画作成を契機に杏林堂薬局より新たにご提案いただき、杏林堂薬局主催オンライン運動教室の講師を担当した。

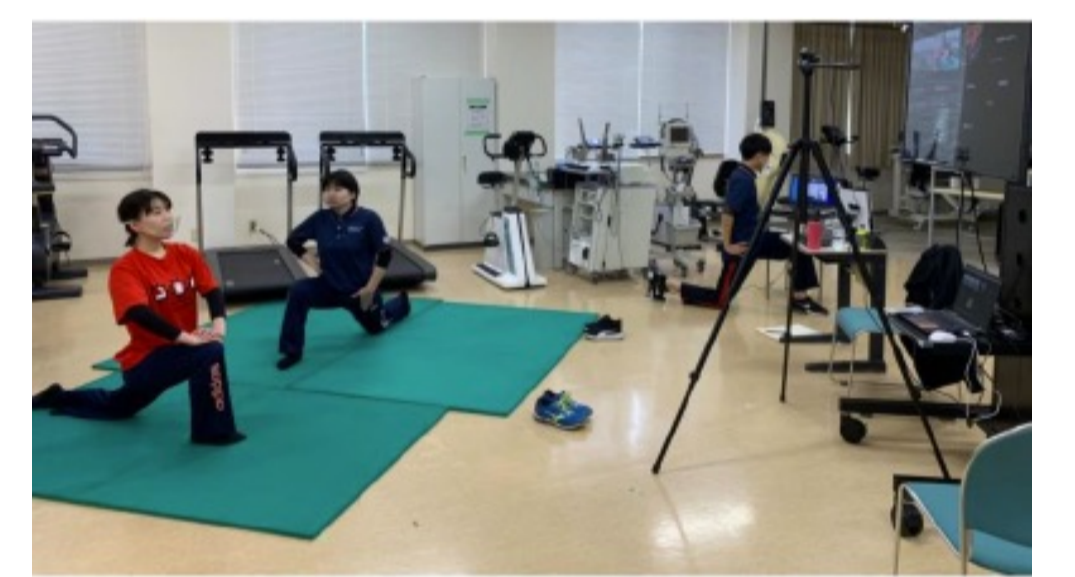
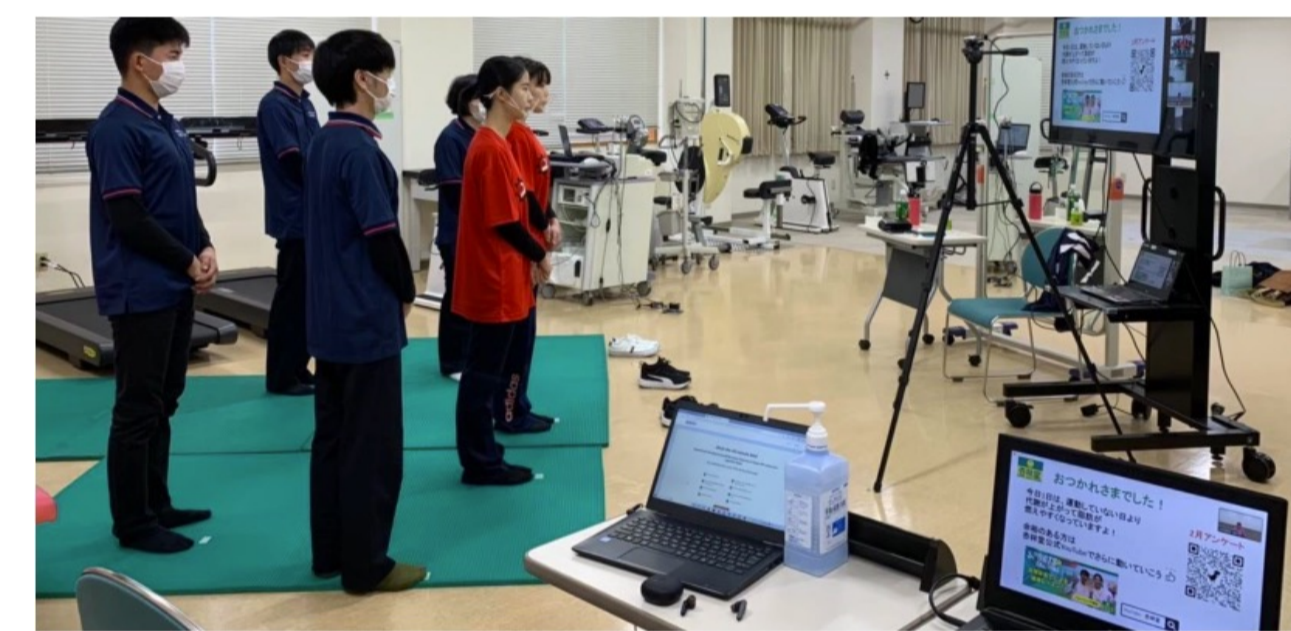
＜内容＞・日常生活でも行える運動プログラム

・理学療法の専門知識を組み込んだ一次予防に関するミニ講義

＜参加者の感想＞・概ね、満足であったとの意見が多数

・日常生活であまり使わない筋肉を動かせた

・風呂掃除などの家事や普段の動きを運動と考えると、毎日の運動量を増やしていけると理解できた



店舗イベントの実施（3学科企画、言語聴覚学科のみ実施）

＜内容＞・高次能、口腔運動、聴覚、発話に関する「測定」を実施

・測定結果が標準値から低下している項目について家で実施できる予防法を指導

・日常生活に生かしていただけるよう資料を配布

杏林堂薬局と湖西市などで実施中のBasS事業実証実験に「店舗イベント企画」という形で参加したため、イベント当日は湖西市市長・副市長が来訪され、実施内容やリハビリテーション専門職の専門性、一次予防の必要性について情報共有も行った。



実施② 連携に必要な学内整備

- ①の事業実施にあたり、関連部署(地域連携推進センター、入試広報センター、総務部)との情報共有を実施
- 学部教員が実施している産学連携の情報公開については、引き続き検討中である



結果・今後の課題

- 連携企業との関係性は強化されてきており、連携内容についてもフォーマットが出来つつある
- 活動内容や成果について、広報が限局的であることから、より一層の周知を図る工夫を検討する必要がある
- 今後は、連携をさらに強化・維持できる体制づくりに加え、企業との連携事業の広報を通して、リハビリテーション専門職の周知や新たな連携の可能性につなげていけるよう検討を図っていきたい

《 プロジェクトメンバー 》

代表者	新宮 尚人（リハビリテーション学部長）		
分担者	飯田 妙子（産学連携推進リーダー）	柴本 勇（リハビリテーション科学研究科長）	
	矢倉 千昭（理学療法学科）	泉 良太（作業療法学科）	佐藤 豊展（言語聴覚学科）
連携機関	尾上 智彦 長嶋 桃子 山田 一仁	酒井 英彰 波多江 早織（以上、杏林堂薬局）	
協力者	高山 真希（理学療法学科）	リハビリテーション学部理学療法学科・作業療法学科・言語聴覚学科学科学生	